

OCTでは、たくさんの方からの応援を募集しています。ぜひあなたもご参加ください！

詳細は <http://www.octjapan.jp/join> をご覧ください。

### サバイバーとして

映像で、文字で、フォーラムで  
あなたのがん体験を伝えてください

**映像で伝える** 体験談を  
3分程度のビデオに撮り、  
OCTに送る

**文字で伝える** 体験談を文章にし、  
OCTのウェブサイトにて  
投稿する

### 企業・団体として

みなさんの企業や団体に合った方法で、  
キャンペーンを応援してください

**協賛団体** OCTの活動に必要な  
資金・物品を寄付する

**協力団体** 自身の主催するイベント等で  
積極的にOCTの宣伝や  
寄付集めをする

**賛同団体** OCTの趣旨に賛同し、  
積極的に賛同を表明する

### 個人サポーターとして

がんやキャンサー・サバイバーの  
声を知り、応援してください

**知る** がんやキャンサー・  
サバイバーの声を  
聞く、読む

**応援する** 写真でOCTの応援を表明  
寄付をする  
Facebook、Twitterで  
OCTを応援する

[www.facebook.com/octjapan.jp](http://www.facebook.com/octjapan.jp) [@octjapanjp](https://twitter.com/octjapanjp)

※OCTについて発信していただける場合は、ハッシュタグ「octjapan」をお使いください

### 寄付の お願い

皆さまからのご寄付を随時募集しています。

キャンサー・サバイバーの声は、社会を変える原動力です。  
みなさまの寄付により、私たちはこれからも、活動をつづけることができます。  
皆さまの温かいご支援をお願いいたします。



## Just Giving Japan

あなたのチャレンジが世界を変える。

JustGivingで寄付をする

<http://justgiving.jp/c/8872>



振込で寄付をする：お振込での寄付も受け付けています。

お名前、ご住所をご連絡いただければ領収書を発行いたしますので、お振込後にこちらまでご連絡いただけますと幸いです。

(ご本人さま確認のため、振込日・振込銀行・金額なども記載頂きますとスムーズな対応が可能です)

振込先

三菱東京UFJ銀行 赤坂見附支店 (064) 普通預金 0172503

特定非営利活動法人 日本医療政策機構 OCT基金口

(トクティヒエイリカソドウホウジン ニホンイリヨウセイサクキコウ オーシーティーキングチ)

※お振込に際し、ご利用金融機関が設定している振込手数料が別途かかります。ご了承ください。

## Over Cancer Together.

Over Cancer Together 事務局：  
特定非営利活動法人 日本医療政策機構内

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-28 7階

TEL 03-5511-8521 FAX 03-5511-8523 E-mail:oct@hgpi.org

# Call to Action

～がんになっても暮らしやすい  
社会をつくるために私たちができること～



Over Cancer Together (OCT)

～がんを共にのりこえよう～キャンペーン

Over Cancer Together (OCT) ～がんを共にのりこえよう～キャンペーンは、がん患者とその家族、遺族、ケアをする人、友人など、広くがんに関係のある人々(=キャンサー・サバイバー[以下、サバイバー])が体験を語り、その話を聞くことで、がんに関する課題を社会に明らかにし、がんになっても暮らしやすい社会の実現を目指しています。キャンペーンを通じて、サバイバーの体験談の紹介、体験談を効果的に話すための研修、たくさんの協力団体と連携した普及・啓発活動を行っています。

運営団体			
後援団体			
協力団体			
技術協力団体			
賛同団体	NPO法人エンパワリング プレストキャンサー、Cava! (サヴァ) ～さいたま BEC～ジャパン・エコール・テ・アロマテラピー、舟橋行政書士事務所、NPO法人二枚目の名刺、株式会社ソーシャルカンパニー、Sport For Smile、NPO法人プラストビート、ココナラ(株式会社ウエルセルフ)、NPO法人放課後NPOアフタースクール、NGOユイメール、日本専門看護師協議会		
協賛	エイベックスメディカル株式会社、サノフィ株式会社、新井橋商店街復興組合、日本イーライリリー株式会社、Moving For Life Japan、樋口宗孝がん基金、Rock Beats Cancer!! 実行委員会、個人の皆様		
米国パートナー			

# Call to Action

～がんになっても暮らしやすい社会をつくるために私たちができること～

## 1 がんと自分の周りのコミュニティ～家族、職場のこと～

### 企業 学校 同僚や学校の先生、生徒が、 がんに対する知識や理解を持つ

サバイバーの声を共有する機会を作り、サバイバーと働く／学ぶことを考える

清水 敏明さん (舌がん経験者)

がんになっても責任ある仕事を続けたい。そのためには、自分の症状や治療内容を会社の上司や同僚に伝え理解してもらうことが大事。

### 自治体 がん対策推進計画にがん患者も 参加するプロセスを組み込む

がん対策推進計画にピアサポートやがん教育、就労支援等、がんとの生活に関わる項目を盛り込む

竹本 治さん (神奈川県政策局 参事監(政策推進担当) / 悪性リンパ腫経験者)

がんは誰でもかかろうる病気。自分ががんになった時には一人で悩まず、それをオープンにして周囲に助けをもらえることが当たり前になる、そんな世の中になりたい。また神奈川県でもがん対策推進計画を作成した。時間はかかるかもしれないが粘り強く進める。地方自治体は、国の動きと住民の生の声を取り入れながら政策を進めていくので、ぜひサバイバーにも積極的に発信してもらいたい。

浪瀬 耕造さん (遺族)

病院の相談支援センターやピアサポートに妻も、わたしも大変助けてもらった。今も遺族となったわたしをサポートしてもらっている。心ある人と支え合い、強く生きましょう。

## 2 がんと自分～自分の病気、治療、生活のこと～

### 医療者 病院だけでなく、社会でがん 向き合うための情報提供

サバイバーが生活の中で直面する問題をサバイバーの声から知り、患者や家族が必要とする情報の提供をこころがけ、若手医療者へのサバイバーシップ(がんと共に生きること)教育を充実させる

皆川 明子さん (乳がん経験者)

聴覚障がい者は得られる情報が限られる。障がいを持つがん患者が必要な情報を得られるよう配慮してほしい。

中川 和彦さん (近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 教授)

腫瘍外科医だけでなく、総合内科をめざす多くの内科医もがんのことをもっとよく知り、サバイバーの声を聞き、患者や家族にあった情報を提供していきたい。

梅田 恵さん (緩和ケアパートナーズ・がん看護専門看護師 / 日本専門看護師協議会副代表)

看護師へのがん医療についての専門教育は途に就いたところである。全国で500人以上になったがん看護専門看護師が、施設を超えて日本のがんサバイバーをさまざまな場所で支えることができるようがんばっていききたい。

久田 邦博さん (慢性骨髄性白血病経験者)

患者がしっかり自分の病気と治療法、副作用を理解しないと治療は続けられない。患者が聞きたいことが聞ける医療現場の雰囲気作りを。

山内 英子さん (聖路加国際病院 乳腺外科部長 プレストセンター長)

医療従事者は、医療の現場だけの患者さんと向き合うのではなく、人間と人間の付き合いを持ち、心を通わす医療を目指したい。後継者教育でも教えていきたい。

### サバイバー 体験談を発信し、 体験談をシェアする仲間を増やす

社会を動かすために積極的に声をあげ、問題解決につながるような建設的な提案をし、広く様々な方法で広める

鈴木 美穂さん (乳がん経験者)

がんを経験した人が、同じ経験をしている仲間や乗り越えた人と出会い、治療や生活の情報をシェアし合い、より生き生きと生きられるようにしたい。

阿南 里恵さん (日本対がん協会 企画事業担当 / 厚生労働省 がん対策推進協議会委員 / 子宮頸がん経験者)

体験談を話すことを通じて、新しい出会いがあり、活動の場が広がった。がん体験という財産を、是非社会を変えるためのツールとして活用してほしい

岸田 徹さん (胎児性がん経験者)

希少がんの情報は少ない。他のサバイバーの体験談は貴重な情報。自分の情報を積極的にシェアしていくことは、他のサバイバーの役に立つはず。

## 3 がんと社会～がんの社会イメージとのギャップ～

### 国 がんの正しい認識の普及、 偏見をなくすための活動の推進

実態に基づくがん対策を進めるためのデータ収集、省庁を超えた連携による学校教育などを通してがんを正しく伝え、「2人に1人ががん」と診断されることや、「サバイバーシップ」を普及させる

足立 伸吾さん (大腸がん経験者)

社会だけではなく、自分の中にも偏見がある。自分をしぼりつけるなんて、もったいない。殻を破って、自分らしく生きよう。

宗像 若菜さん (軟部肉腫経験者)

学校や職場などで、同僚や友達にがんに対する知識と理解を持ってもらえれば、サバイバーがありのままの自分で生活を続けられる。サバイバーとしても自分を知ってもらえるよう発信していこう。

麻美 ゆまさん (境界悪性腫瘍、タレント)

女性特有のがんに対して、事実とは異なる根拠に基づく偏見がある。正しく知ってもらえるために活動を続けたい。

椎葉 茂樹さん (厚生労働省 健康局がん対策・健康増進課長)

正しい知識を伝える、偏見をなくす活動は非常に重要で、こうした活動を推進すると共に、学校教育についても、厚生労働省が主導ではないが文科省を応援していきたい。また、患者の声をきっかけに成立したがん登録推進法も、一人一人の情報をしっかり活用して今後のがん対策に反映させたい。

### メディア がんと共に生きることも含めた 多面的な情報提供

同僚や学校の先生、生徒が、がんに対する知識や理解を持てるよう、サバイバーの声を共有する機会を持つ

井本 里士さん (毎日放送情報局ニュースセンター VOICE 編集長)

大事な情報は、繰り返し伝えることに意味がある。それがメディアの役割だと考えている。「視聴率」にこだわるだけでは社会的使命は果たせない。本日に大切な情報を伝えていくために、他の媒体とも協力していきたい

### みなさん サバイバーのことをもっと知り、 周りの人にもシェア

体験談を聞き、その体験談の内容や、なぜサバイバーの声を聞くことが重要なのかを、家族や友人にシェアする

※所属、肩書等は2013年12月当時のものを使用しています

そして、わたしたち OCT はサバイバーの皆さんが体験談を発信するために必要な技術を学ぶ機会、体験談を様々な人に聞いて頂ける場をつくることで、支援して行きます。

